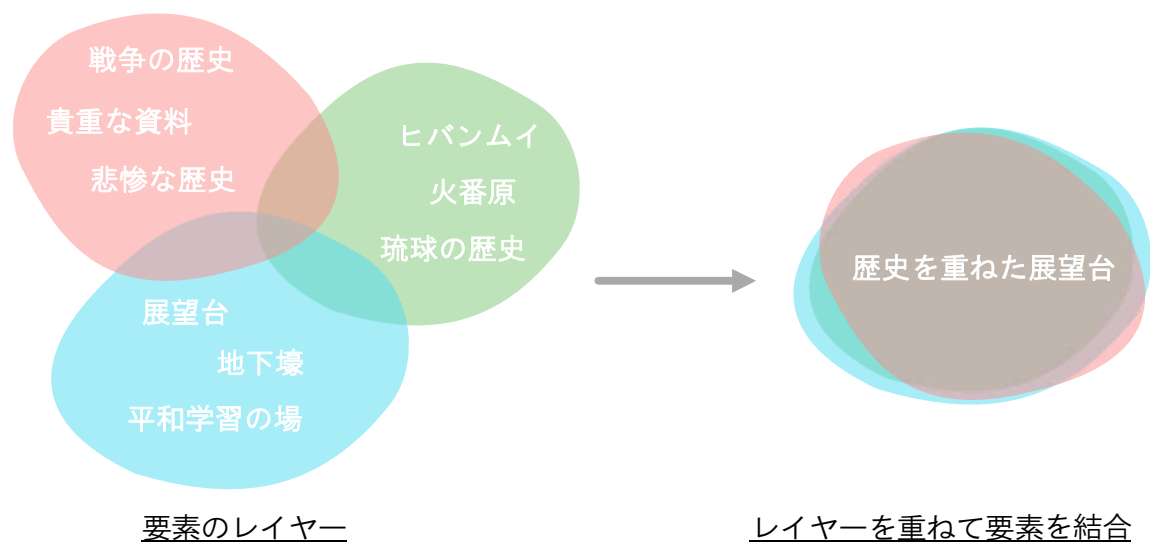


周囲へ寄り添う「新たなヒバンムイ」



01. コンセプト

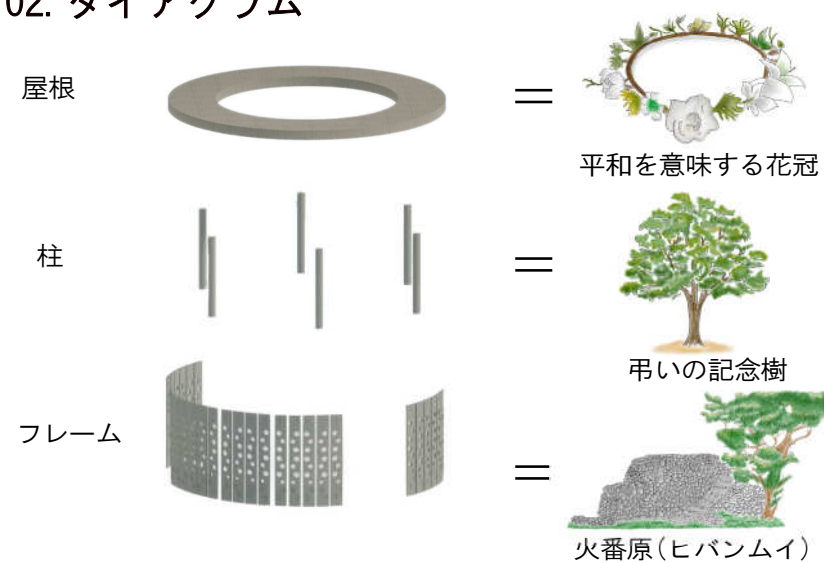


本計画敷地には、戦後の歴史資料があることに加え、琉球王朝時代にはヒバンムイとして利用されていた歴史がある。現在の海軍壕公園展望台スペースでは観光客や地域住民の憩いの場として利用されています。

過去の形態を参照して分解し、新たな役割を与える。歴史のレイヤーを重ねて計画することで新たに建てる展望台として役割を与えながら歴史を尊重した建築としてこの地にふさわしい建築物となります。

豊見城地区の景観計画には、今後の課題として町の良さの再発見ができる魅力ある視点場の整備が求められている。この展望台では「展望」の機能に加えて町の魅力が再発見できるような機能を追加することで展望台としての役割のほかに町の魅力を発見する視点場としての役割を担います。

02. ダイアグラム

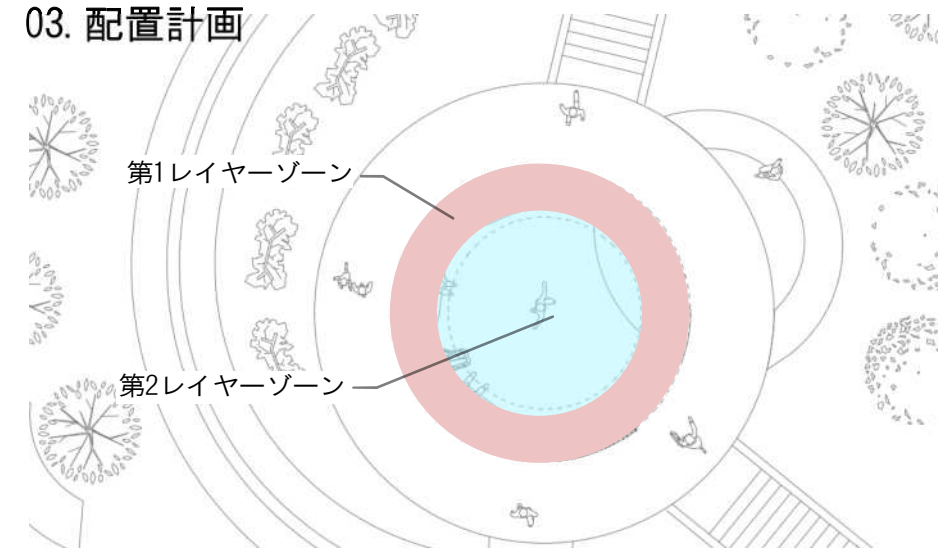


円は永遠の「平和」等を連想することから構成として大部分を担う屋根の部分を円状の形態としています。

列柱空間としたのは周囲に植えられた樹木から形態を模しています。敷地の周囲に植えられた樹木は戦争関係者からの記念樹木ということもあり、ここに建つ建築物も枯れない人工物の樹木として、この地に長い年月戦没者を吊う気持ちを残します。

フレームには戦前にあったとされるヒバンムイから形態を受け継いでいます。そのままの岩ではなく積みあがった岩の隙間のスケールを調整しシンプルな六角形として再構成を行います。

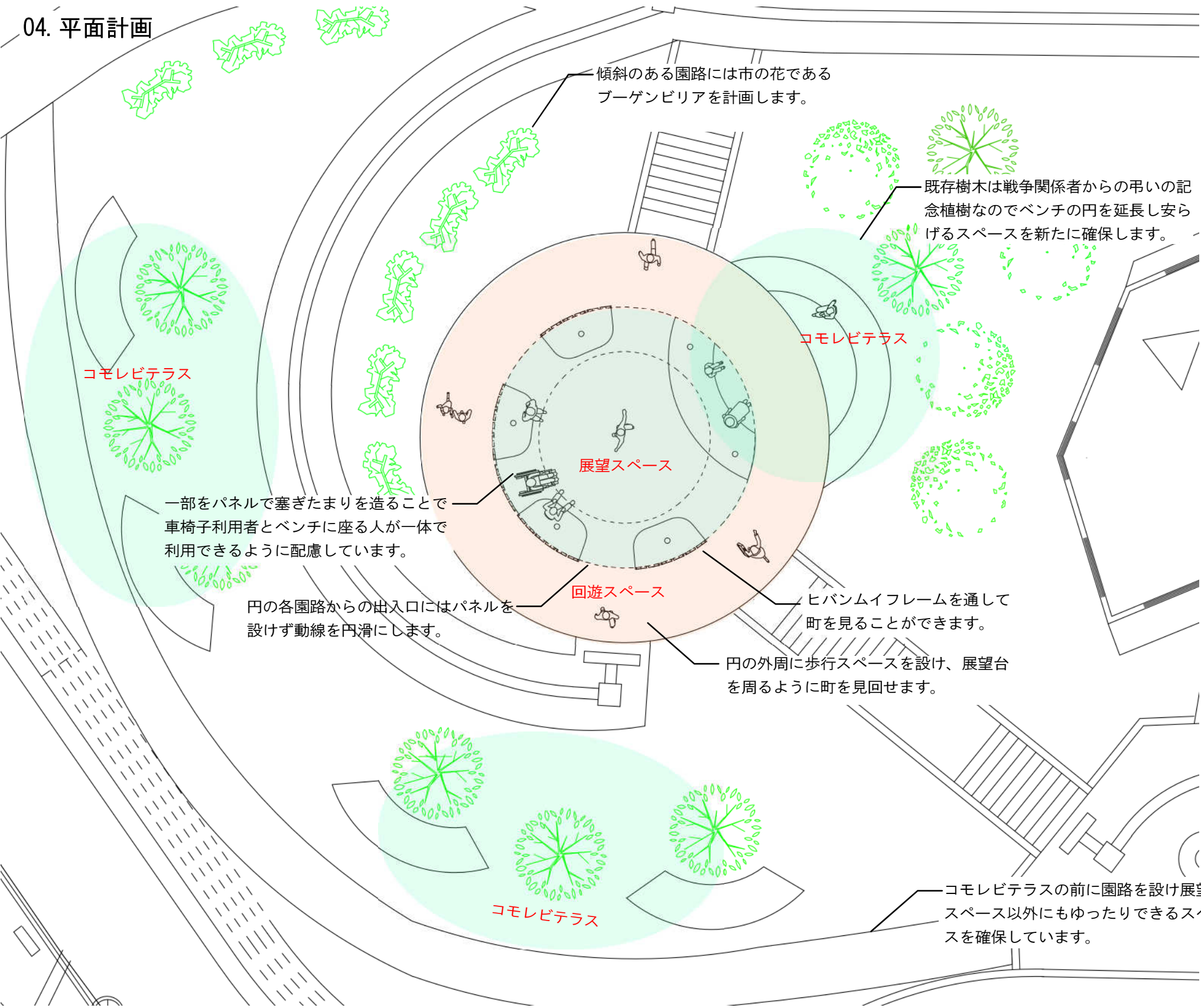
03. 配置計画



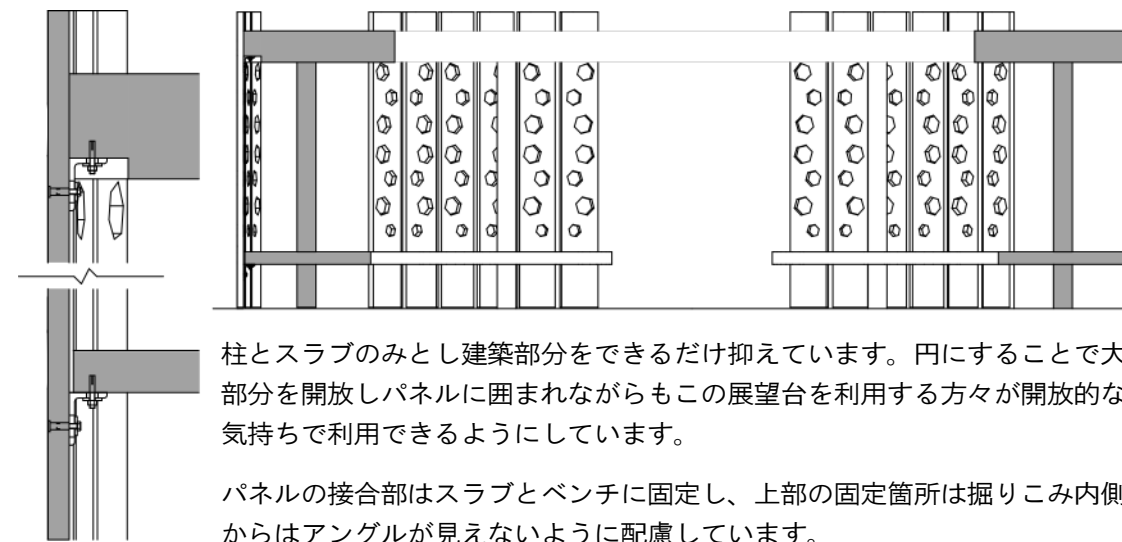
第1レイヤーゾーンからは既存のパノラマビューを望むことができます。現在の海軍壕公園展望台では周囲のマンションや木々で隠されている箇所もあるが360°のパノラマを見ることができます。その良さを残すため展望台の配置は外周から2mバックした位置に計画し、展望台現存の360°から約180°の視野角のパノラマになるが展望台を外周しながら町を見ることができ、人間の視野角の限界である約120°の範囲に納まり、外周を歩きながら気になる位置で止まり写真を撮る等、視線を誘発的に町に促しています。

第2レイヤーゾーンからはフレームを介して町を見ることができます。フレームには開口を設けており町の大部分を隠し、全体から一部だけが浮かび上がる形となり今まで気づかなかった町の光景を再発見できるようにしています。

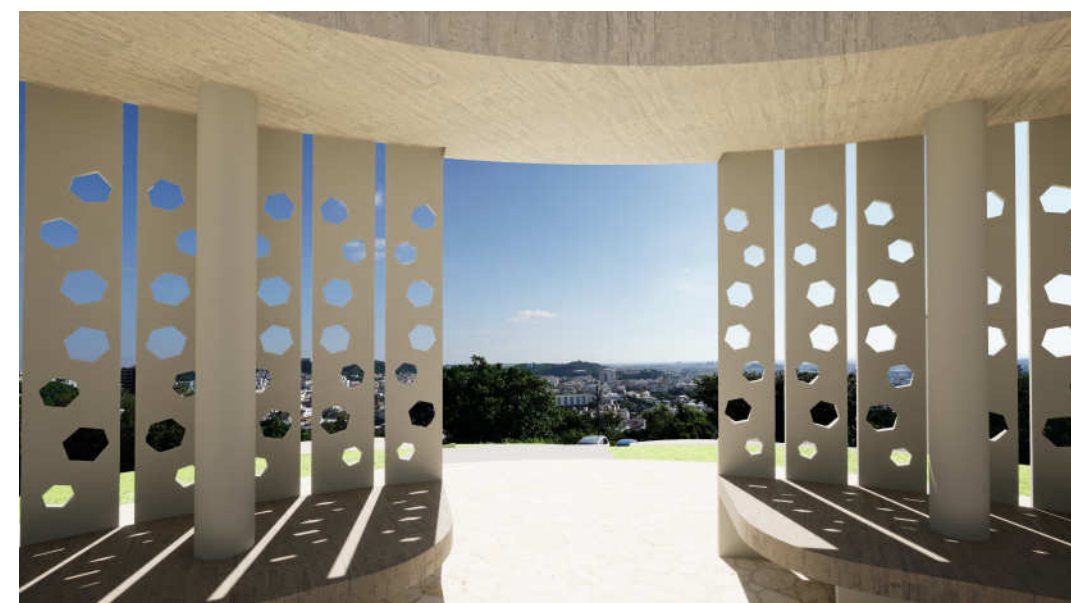
04. 平面計画



07. 断面計画



08. イメージCG



■展望スペースは日常的に公園利用者がゆったりと利用できるようにしています。町並みが望める箇所にはフレームを、反対に既存の樹木がある箇所は開き、この展望スペースと一体的に利用できるように円形のベンチを設置しています。隣接しているビジターセンターでは戦争の資料が展示されていますが戦争の歴史を講演するような広いスペースがないので青空の下で戦争について講演できるスペースとしての利用も考えられます。

05. 建築概要

階数：地上1階	仕上げ
構造：鉄筋コンクリート造	柱：RC打ち放しARP-R塗装
床面積：21.9㎡ 施工床面積：40㎡	屋根：杉板型枠+フッ素クリア塗装
ベンチ高さ：0.45m	床：琉球石灰岩貼
最高高さ：2.5m	フレーム：HPC

06. ヒバンムイフレーム

